

# 米沢街道の町並み保存の取り組み 江戸の街並みを核としたまちづくり

## ●応募理由

米沢街道沿いに残る江戸の街並みを保存し、自立の村づくりにつなげるべく関川村と地元  
のNPO（任意団体）米沢街道撞木の会が連携し、全国組織であるNPO法人伝統木構造の  
会とサマーセミナーを共催し、地元住民の歴史的町並みの理解を深め、森林組合や建築組合  
の参加も得て、新たな観光のあり方と関川型住宅の開発と村に残る伝統木構造の住宅ストック  
を掘り起こすとともに、町並み保存の活動をさらに応援するため。

## ●作品または活動の概要

### ①まちづくりの取り組み主体

関川村、米沢街道撞木の会、NPO法人伝統木構造の会

### ②活動概要

NPO法人伝統木構造の会「関川サマーセミナー」を協働で実施

自立の村づくりを進める関川村、町並み保存と地域の活性化を進める米沢街道撞木の会、  
伝統的な木造構法の保存と継承及び発展に資する活動を進めるNPO法人伝統木構造の会が  
協働してセミナーを企画実施することにより、地域のまちづくりの機運を醸成し、町並み保  
存と地域経済の活性化（温泉への宿泊客の誘致、関川型住宅の建設など）を図る運動を進め  
ている。

なお、村には朴坂集落や小和田集落など築後100年を超える格式のある民家がたくさん  
眠っている。これらの発掘も課題である。

### 《参考》

関川村自立の村づくり <http://www.vill.sekikawa.niigata.jp/info/somu/muradukuri/index.htm>

米沢街道撞木の会 <http://www.geocities.jp/syumokunokai/index.html>

NPO法人伝統木構造の会 <http://dentou.org/>

## ●作品または活動の特色

### ■取組みの趣旨 \*撞木とはお坊さんが鐘を打ち鳴らす棒のこと

渡邊邸を中心とする米沢街道の江戸の町並みは、道に面して美しいファサードをもち町並  
み景観を形成している。昭和62年にナショナルトラストは、米沢街道に残る歴史的町並み  
を調査し、その特徴として多くの民家が道に面してT型の平面を持つことから「\*撞木造り」  
と命名した。

その後、30年経過し当時の町並みに一部歯抜けが見られるようになった。そこで、昨年9  
月地元の有志が、伝統建築の所有者や温泉組合の会員、村びとに声がけし、「米沢街道撞木の会」  
を立ち上げた。

今年に入り村出身の私がたまたまNPO法人伝統木構造の会（以下「伝木の会」という）  
の会員だったこともあり、昨年長野県の奈良井宿でのサマーセミナーに続いて、江戸の街  
並みが息づく関川村でのサマーセミナーを企画した。

8月5日～6日に開催した「関川サマーセミナー」の企画のため、伝木の会のメンバーが4  
月末から3回にわたり地元との打ち合わせや現地調査を行った。

## ■企画内容

文化庁及び地元新聞3社の後援を受けて実施した。

### ◆第一日：8月5日（土）

#### <第1講座>基調講演

米沢街道撞木造りの町並み 後藤治工学院大学教授（伝統木構造の会顧問）

山形県金山町「街並づくり100年運動」片山和俊 東京芸術大学教授

#### <第2講座>パネルセッション

司 会；杉浦敬彦 伝統木構造の会理事

パネラー；片山和俊東京芸大教授、後藤治工学院大学教授、平田大六関川村村長、加藤善吉関

川村森林組合長、米野紀男撞木の会会長

#### <第三講座>講演「伝統構法による新たな挑戦」

上野英二オークヴィレッジ木造建築研究所長、山田憲明増田構造事務所

### ◆第二日：8月6日（日）

#### ◇屋根職人の実演（会場：渡邊邸）

渡邊邸石置木羽葺職人 鈴木弘 木羽板矧（は）ぎの実演

#### <第4講座>伝統構法と撞木造りについて（会場 東桂苑）

伝統構法の解説 増田一真伝統木構造の会会長 司会 石田信男

木組みの技 伝統木構造の模型 剣持猛雄（伝統木構造の会会員）

撞木造りの住宅の継手と仕口 渡辺幸治（関川村建築組合長）

村の町屋模型 川内誠さん（村上古建築研究会会員）

#### ◇掘割のある町並み見学

渡邊邸（国指定重要文化財）→津野邸（県指定文化財）、佐藤邸（国指定重要文化財）

→斉藤邸（大正ロマンの建築）

#### ◇フリーディスカッション（会場 東桂苑）

米沢街道の町並みの今後を考える～自立の村づくりに向けて～

## ■成果と課題

①地元自治体とNPOと協働したセミナー企画

②地域と連携した歴史的町並みの保存

③村に残る歴史的ストックを再発見

④自然景観と歴史的町並みを生かした観光と経済の活性化

⑤伝統木構造の会の技術が地域を支援

⑥地元の木で地元の職人が作る伝統建築

⑦“100戸の登録有形文化財がある村づくり”を目指す 以上

関川村は新潟県下越地域にあり米沢街道の宿場町として栄えた村である。村の中心部に  
重要文化財渡邊邸があり村のシンボルとなっている。  
この町並みを保存すべく米沢街道撞木の会が活動を始めた。NPO法人伝統木構造の会は、  
この地でサマーセミナーを行い、伝統木構造の文化的・技術的価値を村民にアピールした。  
これをきっかけに村はまちづくりに燃えている。



江戸の街並み（豪農の館国指定重要文化財渡邊邸）



遠州式庭園（柱で支える伝統構法の建築）



美しいデザインの藁葺き屋根左 国指定重要文化財 佐藤邸（1765年建築）



県指定文化財津野邸（1789年再建）



撞木造りの渡邊邸正面（石置き木羽葺き屋根、1817年再建）



渡邊邸土間ホールは約300人収容可能



撞木造りの 模型（関川建築 組合 渡邊浩治棟梁）



新伝統構法（鶴岡市 剣持 猛雄棟梁）